

「かけがえのない命を守るために」～小中連携「中2道徳の実践」から～

小学校、中学校そしてスクールカウンセラーの先生が連携し、『命』を考える道徳の授業を行いました。『命』という重いテーマを扱いましたが、先生方の個性を生かし、それぞれの切り口から、子どもたちにアプローチしていました。授業は三部構成となっており、第一部では“生命”というキーワードから自分の「**思いを広げる**」授業としました。第二部では「このとりのゆりかご」をテーマに、賛成と反対の立場から話し合いをすることで「**心が揺れ**」、第三部では、自分の両親に対しての素直な気持ちを「**心を伝える**」という授業を行いました。

第一部 自分の思いを広げる（中学校：高田 淳教諭）

『映画「うまれる」の視聴と「生命」についてのウェビング』

第二部 心が揺れる（小学校：蛇川 哲哉教諭）

『かけがえのない命を守るために』

…「このとりのゆりかご」は賛成？反対？

第三部 心を伝える（広瀬 慎一 スクールカウンセラー）

『感謝の気持ちを手紙に書こう』

…両親への素直な思いを表出させる



「小6中1地質巡検」

小学校6年生と中学校1年生が合同で理科の観察学習として「地質巡検」をしています。今年度は悪天候のため実施できませんでしたが、昨年度は、厚田古潭にある露頭から地層の様子や岩石の様子を観察したり、油田跡の地上にしみ出している石油のにおい体験したりしました。観察グループも小中で組んでおり、無煙浜のビーチコーミング（漂着物採取）では漂着物という“宝物”に目を輝かせて採取する姿が見られました。



H25 地質巡検の様子より

「中学校ポロカル発信会」

中学校の総合的な学習の時間では、札幌の文化（サッポロカルチャー）をテーマに調査・探究活動を行っています。「札幌のより良い暮らし」「札幌の人々の幸せ」を考えるために、『買い物弱者を減らすために』『最先端の医療機器による救命の可能性』など、それぞれでテーマを設定し発表しました。

小学5、6年生も参加し中学生の発表を参観しました。写真やグラフを示しながら堂々と意見を主張している中学生の姿に感嘆するだけではなく、今後のまとめ学習の参考にするなど有意義な時間を過ごすことができました。



中3は一人一人が発表します



今年度のポロカル発信会の様子

全体としての成果検証

本校では、日常の児童生徒の情報を共有することを基本にして、行事などを通して児童生徒理解に取り組んでいます。その上で全教員での「小中連携を意識した授業作り」を進めてきました。「校種、教科をこえて参観することで指導方法などの情報交換等もでき、自分自身にフィードバックすることができる」「中学校の先生が専門性をもって小学校に指導することでさらに効果を上げることができる」「小中合同で授業することにより児童生徒の意欲が高まり、協働の活動が期待できる」など、児童生徒のみならず、教員側においても連携の大切さや効果を感じるものとなりました。今後は小学校と中学校、それぞれの学年で積み上げてきた学習や活動、取組がどのようなつながりがあるのかを明らかにすることが重要であると考えています。